

卵

子と精子が受精する大切な場所である卵管は、性感染症など子宮内からの炎症が波及すると詰まったり狭くなったりすることがあります。卵管内を精子や受精卵がスムーズに移動するためには、卵管の通りをよくする必要があります。それを可能にしてくれる治療法が、FT（卵管鏡下卵管形成術）です。

健康保険適用で心にも体にも優しい

すざはら婦人科院長の杉原研吾医師は、こう話します。「不妊症の原因のなかで高い割合を占めているのが卵管通過障害です。従来、卵管が詰まっていると体外受精しか選択肢がありませんでしたが、FT治療をすることで、自然妊娠を期待できる場合もあります」

FTは、内視鏡（卵管鏡）を内蔵した細い管（カテーテル）を卵管に通して卵管を広げる治療です。カテーテルを子宮口から挿入し、卵管の入り口（卵管口）からカテーテルの風船（バルーン）を膨らませながら、卵管内へバルーンを進めます。卵管の先端まで拡張した後、卵管鏡で内腔の様子を観察しながら抜去します。手術時間は約15分。当日帰宅が可能で、手術後の傷

跡ありません。麻酔は局所麻酔または静脈麻酔で、手術後の痛みもほとんどありません。健康保険適用手術で一部を除いて高額療養費制度の適用となります。

「FTは、女性の心にも体にも負担の少ない治療です。卵管を広げておけば、体外受精を行わない周期でも自然妊娠できる可能性が残ります。また、卵管が詰まっている状態で体外受精を行った場合と、卵管を広げてから行った場合では、後者の方が成績がいいという報告もあります」

すざはら婦人科は、奈良で初めてのFT治療が受けられる施設です。日本国内でFT治療が受けられる施設は少ないのが現状です。それはなぜでしょうか。「FT治療の困難な点は、画数がそう高くない卵管鏡の画像を見ながら子宮内で卵管口を確認し、カテーテルを進めていくことです。卵管鏡は径0.5mmと細いため、わずかな刺激で破損しやすく、高価な卵管鏡やカテーテルを備える医療者側の負担が大きいことも挙げられると思います。私はIVF大阪クリニックの福田愛作院長の元でF



すざはら婦人科 院長
杉原研吾医師

1996年に信州大学医学部を卒業、長野県内の各病院に勤務した後、2004年にIVF大阪クリニックに入職。その後IVF大阪クリニックの副院長となる。12年8月、奈良県奈良市にすざはら婦人科を開院。

P111
をチェック!

体外受精に進む前に 受けておきたいFT治療

取材・文 長谷川拓美(編集部)



洗練されたインテリアと優しい香りに包まれる待合室

「FTは、女性の心にも体にも負担の少ない治療です。卵管を広げておけば、体外受精を行わない周期でも自然妊娠できる可能性が残ります。また、卵管が詰まっている状態で体外受精を行った場合と、卵管を広げてから行った場合では、後者の方が成績がいいという報告もあります」

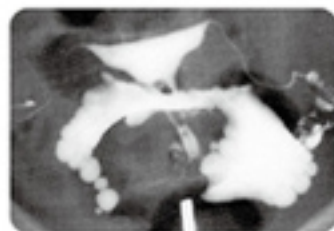
この治療は卵管因子だけを取り除くので、夫の精子が極端に少なく、また、卵巣に問題がある場合は、卵管を広げても、妊娠しない場合があります。

FT治療実施後の妊娠率は30〜35%

「FT治療を500症例以上行っておりませんが、幸いに今まで卵管が通過しなかった患者様はおりません。卵管内の癒着が著明だった方は、FT治療後、卵管造影を行って、卵管遠位部（卵管末）の通過性を評価することも必要です」

FT実施後、卵管通過率は90%以上で、妊娠率は30〜35%といわれています（わが国における生殖補助医療の実態とその

子宮卵管造影で見る通過性回復の様子



卵管の通過性が回復した画像



卵管が詰まっている画像

FT
治療後

在り方に関する研究／1999年「産科と婦人科VOL.63 No.1/1996年」。

「卵管が詰まっていますと体外受精しかないと思われていた方が、この治療を受け、自然妊娠されるケースを数多く見ました。卵管に主な原因があると聞かれている方は、体外受精に進む前に、一度考えてみてはいかがでしょうか」

FT: Falloposcopic Tuboplasty